

【ジュネーブ共同】広島で被爆したイチョウの種から育てられた苗木が3日、スイス・ジュネーブの国連欧州本部の公園内に植樹された＝写真。苗木は松井一実広島市長が、核廃絶の願いを世界各地に届けようと平和首長会議で実施している「被爆樹木」の苗木配布活動の一環で5月に寄贈した。

植樹式ではジュネーブを訪問中の国連の潘基文事務総長が「未来の世代がこの木を見て

「国連欧州本部へ  
被爆イチョウ」  
広島市長が寄贈



世界が『核兵器なき世界』実現のためにどのように団結したのか思い起こすようになってほしい」と演説した。その後、潘氏がスコップで1.5杯ほどに育った苗木に土をかけると出席者から拍手が湧いた。

平和首長会議は核廃絶に向け国内外の約7千都市で連帯する非政府組織（NGO）で、原爆の惨禍を生き延びた樹木の苗木や種を海外に送る活動を展開している。

Chugoku Shimbun, 3<sup>rd</sup> October, 2016

The U.N. secretary general planted a sapling of a ginkgo tree that survived from the 1945 atomic bombing of Hiroshima in a park at the United Nations Headquarters in Geneva, saying "I take this opportunity for future generations to remind all states of their responsibility to pursue nuclear disarmament as an urgent priority."